

人に直接関わる教育支援

双日(株) 広報部
CSR・環境課
課長 寺中雅美

双日は、「双日グループは、誠実な心で世界の経済や文化、人々の心を結び、新たな豊かさを築きつづけます」という企業理念のもとに、持続的社会的実現を目指している。それは、当社のビジネスを通じた社会への貢献だけにとどまらず、双日グループ各社とその社員一人ひとりが、世界各地での社会貢献活動を通じて実践すべきものだと考えている。特に、当社の目指している重点分野は「人に直接かかわる教育支援」で、自助性、継続性、透明性を重視し、地域に根付き、かつ次世代につながる取り組みを行っている。

今回は、その中から以下の2つの活動を紹介する。

アフリカで児童・幼児の教育支援

初等教育環境の改善は、児童の心身の発達に深く関わっており、長期的に自立を促す効果が高く、国際的にも大変要請の高い取り組みである。その改善は、特に途上国においては、弟妹を持つ児童

が子守のために就学できない事態の解消につながっている。それはまた、自宅では発見されにくい「児童の成長不良などの早期発見」を可能にするとされている。

そこで当社は初等教育支援を実行するため、国際 NGO プラン・ジャパンとともに、2010年4月からタンザニア北部のマリザ村で、教育施設の建設や保育士などへの研修などを実施してきた。また第2期として、衛生環境の改善プロジェクトも進めている。さらに、マヒナ・カティ村（タンザニア）に続き、マライッサ・バンベラ村（モザンビーク）でも同様の支援を実施している。

これらのプロジェクトでは、地域社会との協力連携も重視しており、住民は一方的に支援を受けるのではなく、企画・実施・管理の過程において主体的に事業に参加する。その結果、住民が本当に必要とする内容の事業が実施され、それを住民が自分たちの手で継続運営していくことも可能になる。さらには、事業への参加経験が各地域の自助力の向上にもつながる。また、これらのプロジェクトは、当社が参加する国連グローバル・コンパクト(UNGC)*の趣旨にも沿い、同時に、「国連ミレニアム開発目標(MDGs)*」の達成に向けた取り組みでもある。

これら支援に対し、現地の保育士からは「研修を受けたことによって、施設でも家庭でも、子どもの発達を効果的に促すことができるようになった」とか、マリザ村の村議会議長からは「この幼稚園は、地域での模範幼稚園になり、子どもたちは通うのを楽しみにして、元気に通園している」など、感謝の声が多数寄せられている。双日は今後も同様のプロジェクトを継続する計画である。



完成したマリザ村の校舎

双日グループ社員からの絵手紙を手にする子どもたち



